

# SOWER

ソア=種まく人

No.54

April 2026

一般財団法人

日本聖書協会

特集 **木に刻まれ、世界と分かち合われたもの**  
明治時代の聖書版木の帰還と、日本における  
聖書協会の軌跡



イングランド・スウィンドンにあるイギリス聖書協会の施設  
(現在は看板のデザインが異なる)  
©UBS



メリー・ジョーンズが住んでいた村、  
ランフィアングル・イ・ペナント周辺の田園地帯  
©UBS

イギリス聖書協会 (BFB S) は、1804年に設立された世界で最も歴史ある聖書協会です。活動の原点にウェールズのメリー・ジョーンズという少女が42km以上歩いて聖書を求めたという話が伝えられており、この話に強く共感した人々によって、1804年3月7日、ロンドンのビショップスゲートに約300人が集まった会合で、世界最初の聖書協会が設立されました。

BFB Sは英国国内のウェールズ語・スコットランド語・マン島語訳聖書の出版・配布に加えて、カナダのモホーク語への翻訳出版など、他言語への聖書翻訳支援も世界規模で行ってきました。その積極的な活動の中で、1875年に日本に設立した支社は、日本聖書協会の前身の一つとなりました。

20世紀以降は聖書配布にとどまらず、識字率向上のための支援、戦争下での聖書配布、さらにUBS・聖書協会世界連盟設立にも主要メンバーとして参加し、現在に至るまで世界の聖書翻訳頒布のリーダーシップを取っています。

トラファルガー海戦の英雄  
ネルソンの信仰と祈りを紹介する記念展示物  
©Francois Sieberhagen



**The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland**

英国 (グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)  
人口: 約6900万人 (推計、2025~2026年)  
面積: 244,000 km<sup>2</sup>  
首都: ロンドン  
公用語: 英語 (その他: ウェールズ語、スコットランド・ゲール語、アイルランド語)  
通貨: 英国ポンド  
宗教: カトリック: 約10%  
プロテスタント (国教会含む): 約35%  
無宗教: 約38%  
イスラム教: 約6%  
その他: ユダヤ教、ヒンドゥー教

**イギリス聖書協会 British and Foreign Bible Society**  
1804年に設立  
1875年に日本支社を設立 (後の日本聖書協会)  
1946年に各国の聖書協会と共に聖書協会世界連盟を設立  
所在: イギリス ウィルトシャー州スウィンドン

巻頭聖句

きょうだいたち、  
私自身はすでに捕らえたとは思っていません。  
なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、  
前のものに全身を向けつつ……。

(フィリピの信徒への手紙3章13節 聖書協会共同訳)

パウロは、自分が過去の過ち(罪)から解放され、もはやそれに縛られていないことと、それまで誇りとしていた教育や家柄や業績を頼りとすることを止めたことを「後ろのものを忘れ」と表現します。そして、前(上)に召してくださいる神の賞)に向かうという「方向性」の重要性を強調します。未完成なわたしたちも、キリストに捕えられていることに感動しつつ、機会あるごとに、このパウロの言葉を自らに問う者でありたいと願います。

吉田 眞

よしだまこと  
元救世軍日本司令官・日本聖書協会理事

CONTENTS

SOWER No. 54 2026

- 2 特集  
木に刻まれ、世界で分かち  
合われたもの  
明治時代の聖書版木の帰還と、  
日本における聖書協会の軌跡
- 6 日本聖書協会150年記念講演会レビュー  
ペトラ・フォン・ゲミュンデン氏講演会 論旨  
ハイドルン・E・マダー氏講演会 論旨
- 8 人物と聖書 ⑩ 鈴木範久  
三浦綾子と聖書
- 10 エッセー ⑩ 渡部 満  
教文館・聖書館ビル設計者レーモンド
- 12 第4回聖書エッセイコンテスト入選作品  
準大賞 「信者の贈り物」 びわしゅ  
準大賞 「聖書との再会」 佐伯理奈  
あまり賞 「一筋の光」 館 利恵  
流水賞 「赤い線が繋いだ贈りもの」 はせかわ もちお  
松谷賞 「天国行き勘違い」 蘭名ヒズ  
総主事賞 「病室に響いた祈り」 双瞳猫
- 19 JBS 2026年 イベント情報  
口語訳聖書70周年記念講演会 ほか
- 20 ソア54号発行によせて  
編集後記
- 21 新・歴史接写 ⑥  
大阪万博(1970年)と日本聖書協会



表紙の言葉

今回は神戸女学院の音楽館です。設計者のヴォーリスはYMCA派遣の英語教師として来日した伝道師でした。「美しい環境が心を豊かにする」という思いのこもった美しいこの音楽館は今も芸術を学ぶ学生の心を育てています。(絵・文=佐藤百合子)

# 木に刻まれ、 世界と分かち合われたいもの

## 明治時代の聖書版木の帰還と、日本における聖書協会の軌跡

ジョン・プレイク

神学博士、アメリカ聖書協会・  
イノベーション最高責任者



二〇二五年一〇月一日、日本全国、そして世界各地からキリスト教指導者や聖書普及の働きに携わる人々がホテル樺山荘東京のボールルームに集まり、日本聖書協会（JBS）一五〇年の祝会が行われました。多くの国から記念品が贈られました。アメリカ聖書協会（ABS）からは、一八七二年発行のヘボン・ブラウン訳の『新約聖書約翰傳』の印刷に使用された、稀少な手彫りの版木が贈られました。この福音書は後に一八八七年に出版された明治元訳聖書の元になったものです。

この贈り物は、歴史的遺物の返還と言っただけにとどまらず、日本のキリスト者たち、アメリカ人宣教師たち、そして世界にある聖書協会の間で一五〇年以上にわたり担われてきた共通の使命と協力、そして日本における聖書事業の不朽の遺産を象徴するものです。

この版木は、ABSの稀覯本コレクションに所蔵されている二枚のうち一枚で、ギョツラフ訳に次いで日本語に翻訳されたヨハネ福音書の製作に使用されたものです。この版木を選んだのは、二つの象徴的な意味を持たせるためです。第一に、これは三枚のうちの真ん中の版木であり、初期の日本語聖書の形成に、日本人キリスト者が果たした中心的な役割を表していること。第二に、ヨハネ三章一六〜一七節が含まれており、神の愛が世界に向けられていること、人類を救うという神の目的、その福音が世界的な規模に及ぶことを記しているからです。このメッセージは、人類や世界というグローバルな対象を、日本語と言っローカルな言語で表現するという点で、当初から日本における聖書協会の働きの活力であり続けています。

### 始まり…宣教師たちと日本の開国

一八五〇年代以前、日本では聖書は断片的にしか知られていませんでした。それは、何世紀にもわたる迫害の間、記憶の中に、祈りのささやきの中に遺されてきたもの、あるいは隠れキリシタンによって密かに守られてきたものでした。一八五〇年代、日本の開国に伴い、西洋の宣教師たちは日本語を研究し、力を結集させ聖書の翻訳を開始しました。その中には、現代の聖書翻訳の基礎を築いたジェームス・カーティス・ヘボン博士やサミュエル・ロビンズ・ブラウン牧師らがいました。

ABSの公文書には、これら初期の努力を記録した書簡が残されています。最も古い言及の一つは一八五九年五月に現れ、ABSがヘボン博士に「日本の主要な役人やその他の人々に配布するため」に三〇冊の聖書を支給したことを記録しています。その後の手紙には、初期の聖書出版における実際的な課題、すなわち印刷コスト、発行部数、そして木版技術の物理的な限界が詳細に記されています。翻訳委員社中の委員長だったブラウンは、「一組の版木から、おそらく一万部は印刷できるが、最後の二、三千部は質が劣るだろう」と述べています。

日本語の美しい書体に適していた木版印刷でしたが、耐久性がありませんでした。度重なる印刷の圧力により、時間の経過とともに木材繊維

維が破壊され、細かい線がぼやけ、明瞭さが損なわれてしまうのです。そのため、一九世紀末までには完全に、金属活字活版や写真製版が木版に取って代わりました。したがって、二〇二五年に贈呈された版木は、聖書協会の働きと木版印刷が日本で共に歩んだ時期——およそ二五年間という短いものですが——を象徴するタイムカプセルのような役割を果たしています。

### 聖書協会のルーツ…一八七五年以降の横浜

日本における聖書協会の正式な歴史は、一八七五年にスコットランド国立聖書協会（現在のスコットランド聖書協会）が横浜に支社を設立したときに始まります。アメリカ聖書協会とイギリス聖書協会もすぐにこれに続き、聖書の翻訳、印刷、頒布を支援するために協力しました。

この働きは深く協力的なものでした。外国からの宣教師、日本人補佐、そして世界の聖書協会は資金提供と監督の責任を分担し、日本人キリスト者たちは聖書の翻訳と普及にますます指導的役割を担うようになりました。大きな節目は一八八〇年に訪れ、外国人宣教師と日本人補佐による共同作業により新約聖書が出版されました。その七年後の一八八七年には旧約聖書が完成し、初の日本語完訳聖書となりました。

### 日本人による聖書協会へ

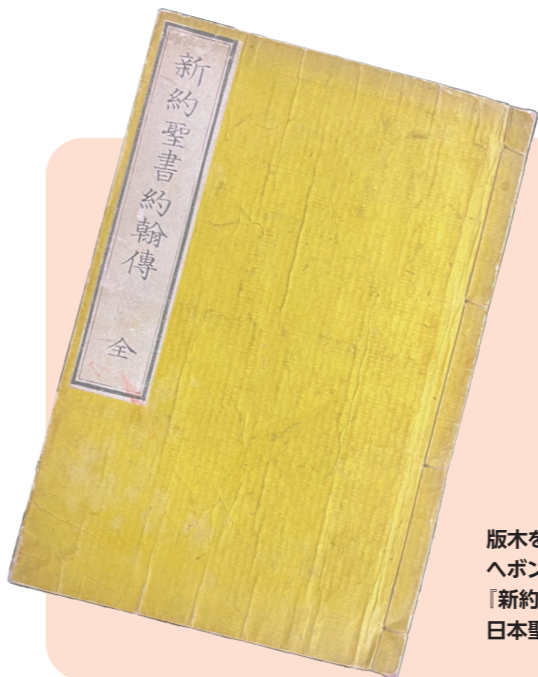
スコットランド、アメリカ、イギリスの三聖



アメリカ聖書協会から贈られた  
ヘボン・ブラウン訳の版木

書協会の協力的な働きは二〇世紀初頭まで続き  
ました。しかし、一九三〇年代までには、日本  
における聖書事業は、日本人が運営し、自立的  
に組織すべきだという機運が高まっていきまし  
た。一九三七年、これら三つの聖書協会からの  
励ましと支援を受けて、日本聖書協会（JBS）  
が聖書翻訳と配布に専念する無教派の団体とし  
て正式に設立されました。

この移行は、旅立ちや別れと言うより、むしろ  
運営管理の移譲を意味しました。JBSの設  
立は、初期の努力を特徴づけていた協力の精神



版木を使って印刷された  
ヘボン・ブラウン訳の  
「新約聖書約翰傳」  
日本聖書協会蔵

を維持しつつ、日本人キリスト者たちのリー  
ダーシップが成長したことを裏づけるものでし  
た。国際的なパートナーとして三つの聖書協会  
は関わりを続け、JBSが初期の困難を乗り越  
えるために支援と助言を惜しみませんでした。

### 試練と再生

その後の数十年間は苦難の連続でした。  
一九三〇年代後半から一九四〇年代半ばにかけ  
ての高まるナショナリズムと戦時下の制限によ  
り、教会の活動は監視下に置かれ、第二次世界  
大戦の勃発は聖書の頒布を著しく困難にしまし  
た。しかし、JBSは、厳しい制約下にあっても  
聖書を手にすることができるよう尽力した日  
本の信徒たちによって支えられ、耐え忍びまし  
た。

戦後、新たな機会が生まれました。連合軍占  
領下での支援と新たな宣教活動により、聖書頒  
布が息を吹き返しました。米国で大量の聖書が  
印刷されて日本にもたらされ、戦後数年間で数  
百万部の聖書が頒布されました。「聖書一千万  
冊頒布運動」のようなキャンペーンは、自由な  
聖書頒布の再開と、生きる希望と意味を求める  
人々の渴望を反映していました。

### 現代の翻訳とエキジュメニカルな進展

日本社会の変化につれて、聖書翻訳も変化し  
続けました。一九五〇年代、口語訳聖書によっ

て、一般読者は親しみやすい言葉で聖書を読め  
るようになりました。その後、プロテスタント  
教会とカトリック教会によるエキジュメニカルな  
共同翻訳作業が進められ、一九八七年に新共同  
訳聖書の出版という金字塔を打ち建てました。  
さらに二〇一八年に完成した聖書協会共同訳  
は、今日広く使用され始めています。

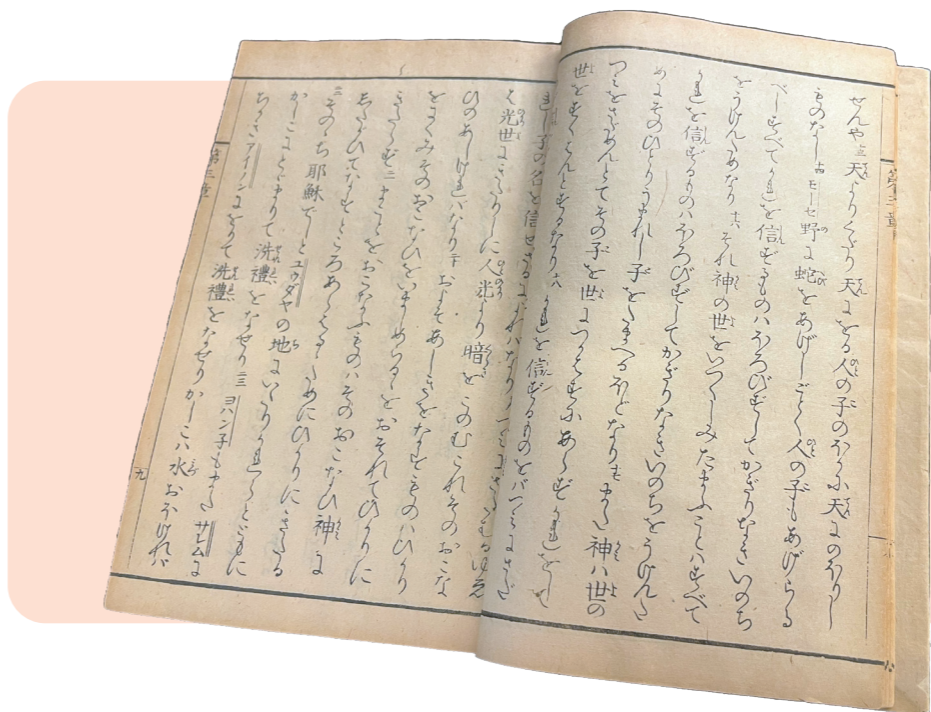
これらの発展を通じて、JBSは、一八七〇  
年代に横浜で最初に育まれた協力の精神を体現  
し続けてきました。その精神は今や、日本国内  
の教派を超えて広がり、世界中の聖書協会との  
交わりを通じて維持されています。

### 過去を敬い、未来を見据えて

二〇二五年、ホテル椿山荘東京で、JBSの  
指導者たちは感謝と敬意をもって、この版木を  
受け取りました。この瞬間は、祝賀であると同  
時に追憶でもあり、世界に門戸を開いたばかり  
だったこの国に聖書をもたらした、初期の三つ  
の聖書協会のパートナーシップへの賛辞となり  
ました。

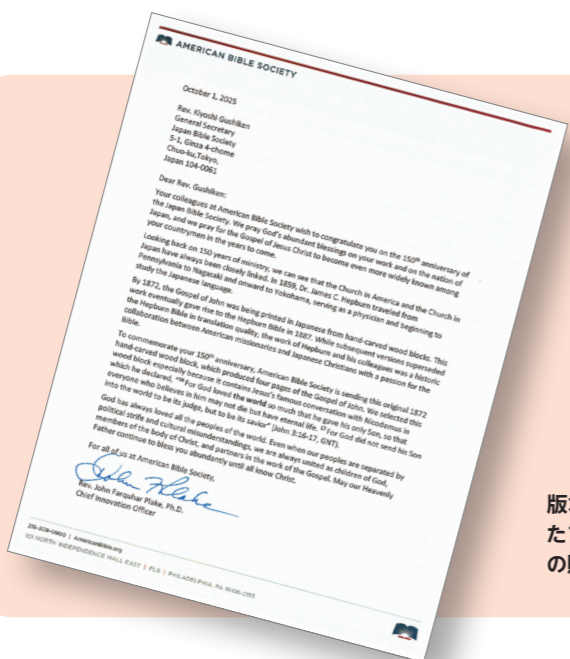
この贈り物はまた、聖書協会の未来をも指し  
示しています。手彫りの版木とインクのページ  
から、デジタル聖書や革新的な頒布戦略に至る  
まで、聖書協会の使命は変わりません。それは、  
神の言葉を、各世代の必要に応じてアクセスで  
きるようにすることです。

JBSが一五〇年を祝うにあたり、この版木



ヘボン・ブラウン訳「新約聖書約翰傳」  
3章16-17節が含まれたページ

版木贈呈の際に添えられ  
たアメリカ聖書協会から  
の贈呈状



の物語は、日本における聖書の旅が、一人の人  
一つの協会、あるいは一つの時代だけの働きで  
はなかったことを私たちに思い出させてくれま  
す。それは、多くの手と心が絶えず協力してくれ  
てきた物語です。そしてこのことは、深く、  
そしてシンプルな真理を示しています。神の言  
葉は、それに奉仕する人々の言語の中で繰り返し  
し形を変えながらも、今もなお、その姿を現し  
続けているのです。

150年記念レセプションにおいて  
版木が贈呈された時の様子  
左からジョン・ブレイク氏とJBS  
の石田学理事長、菊地功副理事  
長、小海光理事会書記



# 日本聖書協会150年記念講演会レビュー

2025年に3回シリーズで開催した

日本聖書協会150年記念講演会の概要をご紹介します。



※神戸女学院・日本聖書協会150年記念講演会はアーカイブ動画を日本聖書協会YouTubeチャンネルで2026年5月31日まで限定公開しています。  
 ▲ <https://youtu.be/Zv4QX45D0>  
 ※3つの講演全文は『日本聖書協会150年記念講演録』（2026年4月末刊行予定）でお読みいただけます。

## 立教大学・後援 ペトラ・フォン・ゲミュンデン氏講演会

「彼は権力ある者をその座から引き降ろし低い者を高く上げる（ルカ1:52）  
 —マリアの賛歌とその受容に見る伝統と革新の相互作用—」

### 講演論旨

聖書における「伝統」と「革新」の関係を、ルカ福音書の「マリアの賛歌（マフィカト）」を例に説明する。聖書の言葉は、時代ごとに読み直され、新しい意味を与えられながら受け継がれてきた。聖書の「作者」はこれまでの伝統に従っているという意味で「読者」でもあるため、「作者」と「読者」をはっきりと分けることはできない。受け継ぎ、語り直し、また読み直す——その積み重ねが聖書のテキストとその受容の伝統と革新を形づけている。

マリアの賛歌もその一例である。この歌は、神が身分の低い者を高くし、飢えた人を満たし、力ある者や富める者を退けると歌う力強い詩である。内容や形式から見て、もともとはユダヤ教の祈りの歌であり、それをルカが自分の物語の中に取り入れたと考えられている。特に旧約聖書の「ハナナの賛歌」とよく似ており、古い伝統を土台にしながら、新しい物語の中で意味づけられていることがわかる。

この歌はその後の歴史の中でも、さまざまに読み直されてきた。中世には、神に選ばれた謙虚な女性の姿として受け取られた。宗教改革の時代に



ペトラ・フォン・ゲミュンデン氏（右）と  
質疑通訳の廣石望氏（左）

は、ルターが「人の功績ではなく神の恵み」に注目して解釈した。さらに近代には、貧しい人々や抑圧された人々の希望の歌として、また女性の尊厳を語る言葉として読まれてきた。

こうした読み方は勝手なこじつけではなく、もともとの歌が持っている「逆転」や「解放」という

テーマに根ざしている。マリアの賛歌は、人と人を分けるさまざまな境界が乗り越えられていく希

望を示している。それは、教会の中で小さいながらもすでに今、実現しつつある希望なのである。

## 上智大学・共催 ハイドルン・E・マードー氏講演会

「十字架の愚かさから平等の教会論へ—パウロとマルコの対話」

### 講演論旨

パウロが語る「十字架の言葉の神学」（十字架にかけられたキリストこそ神の力と知恵だ、という逆説が、マルコ福音書の物語の中でどのように「形」を与えられているかを探る。ローマ世界では十字架刑は最大の恥であり、十字架に死んだ者を救い主と呼ぶことは嘲笑の的だった。ところがパウロは、世が「愚か」と切り捨てるその十字架にこそ、神

の救いが現れると主張する。つまり、知恵・名誉・強さの基準が、十字架によって逆転する。

マルコ福音書は、この逆転を「議論」ではなく「物語」で示す。象徴的なのは、イエスに最も近いはずの十二弟子が、受難の予告を最後まで理解できないことだ。イエスが三度「苦しんで死ぬ」と語っても、弟子たちは拒んだり沈黙したりし、むしろ「だれが偉いか」「栄光の席はどこか」と名誉を争う。ついには裏切りと否認が起こり、十字架の場面では弟子たちは姿を消す。マルコは、十字架が「世」に笑われるだけでなく、信者の内側でも受け入れがたいことを、痛いほどはつきり描くのである。

その一方で、物語には弟子たちと鮮やかに対照をなす三人の無名の女性が登場する。第一に、ベタニアでイエスに香油を注ぐ女性は、弟子たちが理解できなかった「イエスの死」を先取りして受け

入れ、イエスから特別に記憶される。第二に、出血の止まらない女性は、律法を恐れずイエスに触れ、病を癒やされる。ここでは信仰が、弱さを抱えたまま身を委ねることだと示される。第三に、シリア・フェニキアの女性は異邦人でありながら、粘り強くイエスに食ひ下がり、「救いはイスラエルから始まる」という順序を認めつつ、それが異邦人にも及ぶべきだと主張する。こうしてマルコは、十字架の受容、信仰による救い、そして救いの普遍性という、パウロ神学の核心を三つの短い物語に凝縮してみせる。

ここから「平等の教会（エクレシア）」というヴィジョンが浮かび上がる。十二弟子（イスラエル側を象徴しうる存在）のつまずきと、周縁に置かれがちな存在だった女性たちの明晰さを対比させることで、聞き手は自分の立ち位置を問い直すよう促される。ユダヤ人と異邦人、男性と女性といった上下関係を、十字架が暴き、洗礼によってそれらの区別が解消される。こうして十字架の神学は、身分や名誉ではなく、弱さを引き受ける信仰によって結び合う共同体——平等な者たちからなる教会——を生み出すのである。



ハイドルン・E・マードー氏

聖書を文学に活かした

# 三浦綾子と聖書

鈴木範久 すぎきのりひさ 立教大学名誉教授



三浦綾子肖像  
伊豆大島にて

三浦綾子記念文学館使用許諾番号75-1

## 『氷点』と聖書

多くの人と同じように、筆者も、三浦綾子という名前は、作品『氷点』が「朝日新聞」の懸賞小説に入選したことによって始めて知った。1964（昭和39）年のことだった。その後、作品が同紙に連載がされたため、全文に目を通すこともできた。同作品に描かれた罪の問題に対しては、キリスト教の立場から批判の声も聴かれたが、あくまで文学作品であるからには、それは深く問われる問題ではないと思った。ヒロイン陽子の父辻口啓造は、学生時代に師から次の言葉を聞いたという。

「何がむずかしいといって、キリストの、汝の敵を愛すべし」ということほど、むずかしいものは、この世にない

と思いますね。」

のちに啓造が書店の店頭で手にした聖書には、記憶していた文語の「求めよ、さらば与えられん、尋ねよ、さらば見出さん」の聖句が、いつの間にか口語の「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう」と変わって「珍しく、なにかユーモラスであった」と述べている。口語訳聖書に対し「ユーモラス」との感想が記憶に残っている。

このとき聖書を購入した啓造は、のちに教会の前まで行きながら中には入りそびれている。

一方、辻口家の養女陽子は、自分が同家の実子ルリ子を殺した犯人の子であると思ひ込み自殺をはかる。小説は、陽子に回復の希望が見いだされるところで結ばれている。

## 『海嶺』と聖書

愛知県知多半島の美浜町は、ギョウラフによる聖書の最初の日本語訳に協力した音吉の出身地として知られている。音吉は同地の旅館山本屋とゆかりがあるとされ、筆者が同家を訪ねたとき、室内の各所に三浦綾子によって書かれた聖句が何枚か展示されているのを見て驚いた。三浦による音吉らの足跡を訪ねた調査は、国内の知多にとどまらずマカオなど諸外国にまで及び、その成果が小説『海嶺』となった。

## 聖書の勧め

『氷点』や『海嶺』の三浦綾子の著書を読んで何よりも強く思ったことは、人は、その人生において聖書に出会うことは可能であり、そのような状況において「キリストのノック」を聞きとり、「心のドア」を開くかどうかを大切とみる生き方である。日本では、数多くの作家が聖書に関心をもったが、ドアを前にしてたたずんで終わった人々も少なくない。しかし、三浦は違った。三浦がかつて愛読した「ぼろぼろの聖書」

には、次のところに朱線が引いてあるという（『新約聖書入門』光文社文庫、一九八四）。

「わが恩恵<sup>ちから</sup>なんじに足れり、わが能力は弱きうちにまつた全うせらるればなり」

そして次の言葉を書き加えていた。

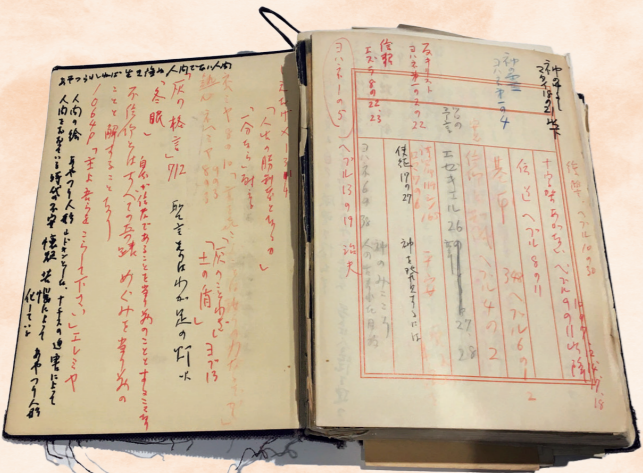
「吾が病いなることを感謝す。明るく生きるものならしめ給え。イマヌエル・アーメン」

## お詫びと訂正

53号「人物と聖書38 奥野昌綱と聖書」の記述に誤りがありました。奥野昌綱はバラ (Ballagh, J.C.) からではなく、ブラウン (Brown, S.R.) から1872年8月に洗礼を受けています。発行者として、深くお詫び申し上げます。(日本聖書協会)



三浦綾子所蔵の口語訳聖書  
三浦綾子記念文学館所蔵  
三浦綾子記念文学館使用許諾番号75-2



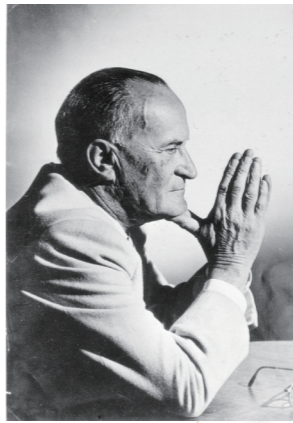
三浦綾子自筆の書き込み  
三浦綾子記念文学館使用許諾番号75-3

# 教文館・聖書館ビルの設計者レーモンド

渡部 満

エッセー

50



レーモンド横顔



ブラジルコーヒー宣伝部 店内の様子

日本聖書協会一五〇年おめでとございます。同じ年に教文館も創業一四〇年を迎えました。教文館は、一八八五年に創業し、二〇二五年に一四〇年を迎えました。最初はアメリカから来たメソジスト監督教会の出版部門として誕生しました。

大正一二（一九二三）年の関東大震災によって銀座は壊滅状態になり、それをきっかけに、築地にあった日本基督教興文協会と合併して、今の株式会社教文館が生まれました。メソジスト監督教会は最初横浜に本部がありましたが、築地に移転し、その後青山学院大学を生み出した教会です。教文館も明治二六（一八九三）年に銀座竹川町（現在の銀座七丁目）に出店し、それ以来ずっと銀座でキリスト教書籍の出版・販売が続いています。いくつかの場所の移動はありますが、明治三九（一九〇六）年以來ずっと銀座四丁目の角地で営業しています。前に述べた関東大震災で家屋が焼失し、昭和八（一九三三）年に現在のビルが建てられた時に、聖書協会と一緒に同じビルに入るようになりました。

現在のビルを設計したのは、アントニン・レーモンドという人で、日本の近代建築史に残るよく知られた建築家です。チェコで生まれ、アメリカにわたり、ニューヨークなどで近代的なビルを建てていましたが、フランク・ロイド・ライトと共に帝国ホテルを建てるために来日し、その後、袂を分かって独立し、様々な新しい試みをした人です。東京女子大学礼拝堂や当時のアメリカ大使館などの建築で有名ですが、それ以外にも伝統的な日本家屋に関心を寄せ、日光中禅寺湖畔にあるイタリア大使館別荘や軽井沢の聖パウロ教会、聖公会の聖オルバン教会など、今も残っている建物が知られています。教会の建築も多く手がけた方で、目黒のアンセルモ教会、新発田市のカ

トリック教会などもよく知られています。

皆さんは、聖書協会のテナントとして太平洋戦争まで聖書協会の八階にレーモンドの設計事務所があったことをご存知ですか。また一階には、ブラジルコーヒー宣伝部というのがあり、藤田嗣治の壁画「大地」が飾られていたことをご存じでしょうか。この「大地」は今も広島にあるウッドワン美術館に所蔵されています。

このレーモンドですが、太平洋戦争時にはアメリカに帰国し、戦後再び来日して、レーモンド設計事務所を再開しました。この事務所は彼の没後（一九七六年）現在も仕事を続けています。しかし、最近NHKの特別番組（二〇二二年八月二八日）で彼が戦時下にアメリカの軍部に協力し、アメリカが日本を空爆した時の焼夷弾の開発に協力していたことが報じられました。あんなに日本の伝統的な家屋に関心を示し、それを高く評価していた建築家がなぜ、そのような爆弾の開発に手を染めたのでしょうか。これは私にとっても謎でしたが、オリンピック競技場の設計で有名になった隈研吾さんが、著書『日本の建築』（岩波新書）で次のように述べているのを読んで、皆同じ疑問を感じていたことに気づきました。

隈さんは、レーモンドがアメリカ帰国時に果たした役割について次のように述べています。「その一見不可解な日本への裏切りともいえる行動も、当時ナチスの同盟国であった日本人に対する、ユダヤ人として敵意の結果としてしか理解できない」（一五七頁）と。

レーモンドは父親がユダヤ人であったため、チェコに留まっていた彼の親族がナチスによってその多くが虐殺された経験を理由として挙げています。そうであったのかもしれません。

また、このビルの地下と一階にテナントとして入っていた、富士アイスというレストランは、永井荷風が愛したレストランとしても、彼の作品に登場します。歴史のなかで、様々なエピソードに彩られた建物にもぜひ関心を持っていただきたいと思います。



渡部 満 (わたべ・みつる)  
株式会社 教文館 代表取締役会長

## 準大賞

## 信者の贈り物

びわしゅ

大型古書店の買い取りカウンターには、日々大量の本が持ち込まれる。しかし美品ばかりではない。汚損、劣化、あるいは専門的すぎる内容など、理由はまちまちながら多くが不適格品とされる。こちらお値段の付けられないお品です。廃棄になってしまいますので、お持ち帰りになりませんか？ 聞いても大抵の客は頭を振る。本の末路が決まるこの瞬間は、幾度経験しても慣れない。

ある年の暮れ、肅々と査定に勤しむ私の前に、見慣れた本が投げ置かれた。新改訳聖書だった。

「いくらになる」平然と訊く声からは、未練も愛着も感じられない。

「……宗教书籍はお値段つけられなくて。廃棄になってしまいます」

「じゃ、あげる」

真意の掴みかねるその人は退店し、新品の聖書が凛と残された。立ち尽くす私に店長は『盗るなよ』とでも言いたげだ。私は踏み絵を前にしたキリシタンのように硬直してしまった。

聖書を、捨てなくてはならなくなった。この手で。嘘でしょ。あまりの事態に自分の鼓動がBGMのま

ライア・キャリアよりうるさく響く。嫌だ。どうしよう。嫌だ。一旦判断留保とし、聖書をカウンター下に置いて顔を上げると、また新たな聖書が差し出された。

「これいける？　そこで配ってるやつ」

「配ってる、やつ」

次の客は駅の方を指さした。

——ああ。配っているのか、聖書を。クリスマス・イブだから。

水解。湧き起こる感情を抑え、私は最初の客にしたのと同じ説明をする。廃棄に、なって、しまいます。「そっか、いいよ」

参った。このままでは私も聖書も助からない。絶える思いで主に祈り、近くの信者の無策を呪う。

二冊目の聖書から御言葉カードがひらと落ちた。裏には上品な文字で『聖書は神様からの贈り物』とある。私は唸った。

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。これは時ではない贈り物。無為に手放され、誰かの——私の手を汚す。泣きたい気分だった。その後も聖書だけ持ち込む人が現れては帰って行く。私は天に何を試されているんだ？」

蛍の光が漸くかかる。閉店。私は聖書を抱えて廃棄倉庫に走った。紙は音を吸い鳴咽も掻き消す。本の墓場の少しでもきれいなところに、そっと聖書た

## 準大賞

## 聖書との再会

佐伯理奈

私は、幼稚園から高校までカトリックの女子校で過ごした。現在18歳である私の14年間は、校内のいたるところにイエス様とマリア様の絵画や彫像が見かけられ、ミサとお祈り、聖歌や聖書が日常に溶け込んだ、まさに神様を身近に感じられる毎日だった。そんな私は、この春、大学に進学した。今までと全く異なる環境に身を置くと、お祈りすることも聖書を聞くことも一切なくなった。我ながら呆れてしまうくらい「カトリック教育はどこへやら」であった。

大学入学から3ヵ月後、私は課題レポート作成のため、自室の本棚で資料を探していた。背が高い地図帳や資料集の間に立つ、小さな聖書の姿が見え、ふと手に取った。年季が入った聖書をパラパラとめくると、ページの間からノートの切れ端がするつと落ちた。そこには、授業中に友人とこっそり交わしたメッセージがしたためられていた。

一瞬で、あの日にタイムスリップした。

太陽の優しい光が注ぐ教室や、風が運んでくるどこかの金木犀の香り、クラシカルな制服を着た私たちが、先生のちょっとした言い間違いにくすくす笑う。私と隣の席の友人は、授業とは全く関

係のない話を同じ切れ端に書き合っていた。「ああ、懐かしい」と微笑むと同時に、ふいに涙腺が緩んだ。

実は、このときの私は少し無理をしていた。そんな自覚があった。大学という新しい環境に新しい仲間、初めて取り組む学問と語学、そして、初めての感情。楽しいけれど、充実しているけれど、慣れないこととの連続で毎日がてんでこ舞いだった。聖書を開いたとたん、私の前に神様が静かに現れ、「大丈夫だよ」と温かく包んでくださった気がした。ノートの切れ端が挟まれていたのは、偶然にも「放蕩息子のたとえ」のページであり、家を飛び出し、すべてを失った息子を父が抱きしめて迎えるあの場面だった。神様はずっとそばにいてくださったのだと気付き、胸が熱くなった。

その夜、卒業式の日にもいつも通り「またね」と別れたきり途絶えてしまっている、あの隣の席の友人にSNSで連絡をした。「懐かしい！」「嬉しい！」と彼女から矢継ぎ早に返信が来た。まるで、あの日の切れ端のやりとりと同じように。短い時間にテンポ良く、何往復か交わし「また必ず会おう！」と結ばれた。それから数時間後、「本当に本当に、ありがとう」と彼女らしからぬ、しっかりとしたメッセージが改めて届いた。彼女も私と同じように、疲れていたのかも知れない。「良いタイミングで連絡したな、聖書のおかげだな」そう思った。

聖書は、決して戻れない美しい日々が神様の愛

ちを置く。ごめんなさい、私には肉の糧のための働きがあり、社会から逸脱できません。鉄扉を閉める。聖書を捨てた業を負う。三十枚の銀貨が落ちる。もうじき鶏がすべてを暴く。神様の贈り物を、私は捨てる役回り。ああ、キリストも弟子もヨセフもノアも、皆それぞれの役回りに、こうして忍従したのだろうか。

聖夜の店外に散らばる御言葉カードと吸い殻とをちりとりを集めながら、旧約世界の延長線上に自分があるのだと改めて思った。店員Aの手で捨てられ、どろどろに溶かされ再生される聖書の群が、次こそ受け取られる贈り物になることを切望せずにはおれなかった。

## ●選評

聖書を廃棄する仕事。確かにあり得るわけですが、なかなかい体験ですね。

ただの紙の束と思うか、なんらか抵抗を感じるか、人によってそこには大きな違いがあります。私だったらどうするだろう……。

タイトルが「信者の贈り物」なのもあって、「買者の贈り物」を思いだします。まさに読み心地がO・ヘンリーの短編のよう。エッセイと小説の間に転がり落ちた小さな真珠のような一篇。びわしゅさんの切なさに共感します。(林あまり)

びわしゅさんは前回、あまり賞で大きな注目を集められましたが、贈り物というテーマからこの話題を選ぶセンスと構成力、描写力のすべてが傑出していて素晴らしい。関係者一同、舌を巻きました。次回以降の大賞受賞にも期待したいですし、まだまだすごい作品を書かれる方だと思います。これからの活躍にも注目し、応援させていただきます。(清涼院流水)

に包まれていたこと、そして、今も私のそばに神様がいて、それを知らせてくれた。そこに書かれた神様の言葉たちだけが尊いわけではない。聖書という存在自体が神様から私たちへの贈りものであり、御守なのだろう。

今日も本棚の聖書に目をやり「行ってきます」と声をかける。この小さなお祈りが、私の新しい日課だ。

## ●選評

佐伯さんの楽しい美しい高校時代が、そのまま一冊の聖書に重なっていて、なんとステキな時間を生きていらしたのだろうと思います。

思い切って連絡してみた友と、また新しく恵みに満ちた時間が始まるのでしょうか。(林あまり)

ふとした拍子に手に取った聖書から落ちたのは、高校時代、授業中に友人とやりとりしていたノートの切れ端でした。それがきっかけで疎遠になっていた旧友との関係がよみがえるという、聖句以外でも聖書が人生を変えてくれたユニークなパターンです。メモが挟まっていたのが「放蕩息子の帰還」の場面だった、という点にもお導きが感じられます。(清涼院流水)

一筋の光

館 利恵

聖書と私の初めての出会いは、小学五年の秋だった。そのころ私は、同級の女子たちから苛めを受けていた。足が悪いからだだった。

クラスの女子は十二人。そのうち五人が休み時間になると、あること無いことで言いがかりを私に付けた。

バランスが取れずに変な歩き方をしていること、速足で泥だらけの急な斜面を降りられず、担任の先生におぶってもらったこと、習いごとの都合で学校を早退したこと、等々。

よくもまあこんなにたくさんの内容を次から次と思いつくものだと感心するくらい、私を責め立てた。

二階の教室から一階へ逃げると、五人で肩を組んで私の歩き方をもっと大きめに大きな音を立てて足を引きずって付いてくる。一階の低学年の生徒たちが驚きの眼で私と彼らを見ている。恥ずかしくてたまらなかった。

給食のあとの昼休み、たまたま逃げ出すことができた。追いかけられたが、図書室に逃げ込むと、不思議なことに誰も入ってこなかった。司書の先生もいない独りぼっちの空間で私は本の世界に浸った。

そこで見つけた旧約聖書は、時代と空間を超え

たファンタジーの世界だった。聖書を読んでいる時間だけ苛めを忘れられた。

しかし苛めはエスカレートしていった。放課後毎日五人に取り囲まれ、頬を殴られたり蹴られたりした。先生も級友たちも助けってくれなかった。逃げると思われ、石が飛んできた。

「死にたい」と家族に訴えると、祖母が苛めっ子の家に文句を言いに行った。すると事態はさらに悪くなり、学校の机に黄色いチョークで「死ね！」と書かれ、「親に言いつけるなんて卑怯者」と書いた紙くずが何枚も机の中に入れられた。

さらにHRで「館利恵が死にたいと言っていること」というテーマで皆の前で討論され、クラス中が「死にたい」という気持ちを持つことは悪いことだ」と私を責めた。担任もそれに同調し、私は泣くこともできなかった。

そんな私の辛さを和らげてくれたのは、図書室の子供用聖書だった。中に

「スズメ一羽でさえ、天の父が知らないうちに地面に落ちることはありません。ですから、恐れることはありません。あなたたちはたくさんスズメよりも価値があるのです」という文章を見つけた。

独りぼっちで誰も味方がいないと思ったけれど、ひょっとしたら神様が私を大切に思い、見守ってくださっているかもしれない。そう思ったから涙が止まらなかった。

毎日学校に行くのは辛かった。でもそれからは冷たい視線や言葉を浴びるたび、「スズメ、スズメ」

と心の中で唱えて耐えた。

暗闇に溺れながら一筋の光を信じた日々は私を強くした。五年間のいじめに耐えて義務教育を終えた私は地域一番の進学校に入学した。苛めっ子は一人も来なかった。(終)

● 選評

ここに書かれたつらさ、きつと私には百分の一くらいしかわからないでしょうが、それでも胸がしめつけられます。私はいじめや体罰の激しい小学校で育ち、中学は同じメンパーが進む地元の公立には行きたくなくて、キリスト教主義の中学に進みました。

館さんが、「スズメ、スズメ」と呟いて乗り越えた日々。いまやスズメは大きく遠く飛び立ったのです！  
「一筋の光」の素晴らしさを思います。(林あまり)

赤い線が繋いだ贈りもの

はせがわ もちお

初めてのニューヨークは、今から四十五年前のことだ。マンハッタンの小さなホテルの引き出しに、聖書が入っていた。表紙は使い込まれ、ページには無数の手垢がついている。もちろん英語だ。何気なく開いてみると、ある箇所には赤い線が引かれていた。

「For where your treasure is, there your heart will be also.」

辞書を片手に訳してみる。「あなたの宝のあるところに、あなたの心もある」。マタイによる福音書6章21節だった。当時の私には、その言葉が妙に心に残った。旅先で出会った、見知らぬ誰かが残した痕跡。その人はなぜ、この一節に線を引いたのだらう。メモ帳に書き写して、聖書を引き出しに戻した。

それから二十年ほどが過ぎた頃のことだ。仕事で訪れた地方都市のビジネスホテル。昇進の話があったが、それは家族との時間を犠牲にする転勤を伴うものだった。私は答えを出せずにいた。宝とは何か。心はどこにあるべきか。

ふと開けた引き出しに、やはり聖書があった。何の気なしに開くと、驚くべきことに、全く同じ箇所に赤い線が引かれていた。まさか、と思った。何百キロも離れた場所で、同じ言葉に誰かが心を

留めている。四十年代半ばの私は、二十代の自分がメモした言葉の意味を、ようやく理解し始めていた。

その時、私は咄嗟にポケットからペンを取り出し、余白に小さく書き添えた。

「This verse gave me courage. Thank you.」

書き添えた英語は、拙い文法だったかもしれない。でも、心は込めた。勇気をもたらった、ありがとう、と。

後悔はしていない。それどころか、あの瞬間、私は聖書というものの本質を垣間見た気がした。聖書は、贈られるものであると同時に、贈り続けられるものなのだ。時代を超え、場所を超え、言葉を超えて、誰かから誰かへ。見知らぬ人の心に残された小さな印が、また別の誰かの心を温める。

あの赤い線を引いた人が誰なのか、私は知らない。そして私のメッセージを見た人がいるのかどうかも、永遠にわからないだろう。でも、それでいいのだと思う。聖書が部屋の引き出しに静かに置かれているように、贈りものとは、見返りを求めない静けさの中にこそあるのだから。

今、私の書棚にも一冊の聖書がある。あの旅から帰国後、日本語訳を手に入れたものだ。時折開いては、あの赤い線を思い出す。そして思うのだ。私もまた、誰かにとっての赤い線になれたらいいな、と。

● 選評

ニューヨークの小さなホテルにあった聖書には、とある聖句に赤い線が引かれていました。そして、約20年後、地方都市のホテルにあった聖書には、まったく同じ箇所に赤い線が……。信じられないような話ですが、同種の奇跡を体験されている方も多と思います。お導きについて考えさせてくれた、個人的に今回いちばん好きな作品です。(清涼院流水)

## 天国行き勘違い

蘭名ヒズ

ママへ

ねえママ、なんちゃって聖書のこと、覚えてる？

中三の夏休みだったかな。

ママが「はい、聖書」って、まじめな顔で渡してくれた。

高そうで分厚い本。

「読んで、ママに教えて」って言ったよね。

でもさ、気づいてた？

得意技の勘違い、聖書じゃなかったよ。

そういえばママって、占い好きなのに、

十字架のペンダントしてたよね。

いろいろズレてた。

ま、いいよ。

あの本が謎すぎて、逆に聖書、欲しくなっちゃった。

わかりやすそうなことも用の聖書、買ってきたの覚えてる？

黄色いカバーの。

ママ、珍しくほめてくれたね。

「聖書読むのは良いことだから」って。

じゃあ、なんでママは読まなかったの？

本気で、私の読み聞かせ待ってた？

こども用の聖書、読んだけど、ちっとも響かなかった。

ママが最初に「伝記」だって言ったせいかも。

神さまの言ってることがわからなかったら、

人生、道しるべなしじゃん。

最悪……

ママ、聖書を開く娘に、満足してたでしよ。

私、なんとなくわかってた。

結局、本棚で何年も眠っちゃったけどね。

だって、さっぱりわからなかった。

でも、教会の聖書研究会なら、きっと手取り足取り教えてくれる。

あのこども用の聖書片手に……もぐりこんだ。

全員から「おもしろい聖書！見せて！」って、想定外の反応。

話題独占、私の聖書、たらい回し。

すっごい恥ずかしかった。

その時、教会の聖書を初めて見たの。

びっくりしたよ、旧約と新約が一緒なんだもん。

本物の文語体、こういうの苦手なんだよね。

お説教聞いても、無感動。

洗礼受けても、変化ゼロ。

聖歌隊入ったら、ママ「発表会」って言うし。

もう、めちゃくちゃ。

そうしているうちに……

ママ、ベッドの上で意識がなくなっていたね。

ボサボサの髪を気にしながら……

私、ずっとお祈りしてた。

ママが神さまを受け入れる、最後のチャンスだと思って。

そしたら、

光の輪郭の中に、イエス様が出た。

私と同じことしてる。

ママの天国の遮断機があがったのに、なぜか心がどんどん落ちていく。

神さまとホットラインがつながった瞬間だった。

捜されてたって、やっとわかった。

暗い部屋で、

何の力もない私と、寝てるだけのママに、

帰り道を照らす光が来た。

この光が「愛」。新しいのに、欲しかった！

聖書って、本じゃなかった。

愛の文字化版だったんだ。

言葉からくる力、それ、信仰の導火線。神さまのみわざ！

天然ママが選んだ、

あの分厚い本だって、聖書につなげちゃう。

だから私、何があっても大丈夫。

間違えても、神さまは私を忘れない。

これが、私の奇跡物語。

ママ、そっちでは勘違いしてない？

謎な本の贈り物、ありがと。

じゃ……またね。

ママの子より。

## ●選評

他の作品に比べてもひととき異彩を放つ独自の文体が印象的。軽やかな会話調と率直な感情表現が、信仰や死という重い主題をやさしく包み込み、読者との距離を縮めている。「天国の遮断機」「神さまとホットライン」「愛の文字化版」という表現に象徴されるように、理解できなさや迷いさえも信仰のプロセスとして肯定的に描き出した点が新鮮で、深い余韻を残す。

(松谷信司)

## 病室に響いた祈り

双瞳猫

私が小学六年生の秋、母の長い闘病生活が始まった。それは中学二年の秋に終わりを迎えるまで、三年の長きに及んだ。

大病院での闘病中、私は漠然とした不安を感じつつも、後に「悪性黒色腫」と告げられる母のその病が、死に至るものとは知らされていなかった。そんなある日、日曜学校の先生をしていたクリスチャンの叔母に伴われて、一人の牧師さんが母の病室を訪れた。我が家は曹洞宗の仏教徒であり、盆や彼岸にはお寺参りを欠かさない家庭だった。だからこそ、場違いな訪問者に、私は若干の警戒心を抱いたかもしれない。日に日に弱っていく母の前に、私は無力感とやり場のない怒りに苛まれていたのだ。

牧師さんは穏やかな笑みを浮かべると、母のベッドの脇に静かに腰掛けた。そして、使い古されて角が丸くなった小さな聖書を手に取り、ゆっくりと語り始めた。「少し、お祈りをしてもらいますか」。母はか細い声で頷いた。正直、私はどうしたら良いのか途方に暮れていた。しかし、牧師さんが静かに目を閉じ、祈りの言葉を紡ぎ始める、病室の空気が変わった。それは、何かを懇願するような切羽詰まったものではなく、ただただ、母の苦しみが和らぐようにと願う、柔らかな

く、深く、澄んだ響きを持っていた。

「主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません」。はるか昔に母の享年を超え、還暦を過ぎた今でも忘れられない。牧師が読んでくれたのは、詩編二十三篇だった。その言葉の一つひとつが、乾いたスポンジに水が染み込むように、私の心に、そしておそらくは母の心にも沁み渡っていった。「たとえ、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れませぬ。あなたが私とともにおられますから」。癒やしを求める祈りは、病の床にある母だけでなく、愛する人を失いそうな恐怖に押しつぶされそうになっていた私の心にも、一筋の光のように差し込んだ。それは、宗教や宗派を超えた、普遍的な愛と慰めの「贈りもの」だった。祈りが終わった時、母の頬に一筋の涙が伝うのが見えた。それは、絶望の涙ではなく、安らぎの涙のように、私には思えた。

その後、母は自宅近くの病院に転院し、中学二年の秋、冷たい木枯らしが窓を揺らす季節に、静かに息を引き取った。通夜と葬儀は、慣れ親しんだ曹洞宗の作法に則って、菩提寺で厳かに行われた。読経の声が響く中、私の脳裏には、あの大病院での牧師の祈りの言葉が繰り返しこだましていた。

私はクリスチャンではない。しかし、あの時、母と私、そして家族が受け取った「贈りもの」は、生涯忘れることはないだろう。それは確かに、先の見えない不安の中にいた人間に与えられた、安らぎという名の聖なる贈り物だった。信仰の形は

違えど、人の魂に寄り添おうとする祈りの美しさを、私はあの病室で知ったのだ。

## ●選評

牧師の訪問による病床での祈り。その際に読まれた詩編23篇の言葉に安らぎを得たという経験。「先の見えない不安の中にいた人間に与えられた、安らぎという名の聖なる贈り物」「そこで人の魂に寄り添おうとする祈りの美しさを…知った」と結語を読み、しばらくその出来事を思い巡らしました。このような中にこそ聖霊の働きがあると思ひ、慰めを得ました。素敵なエッセイでした。

(具志堅聖)

口語訳聖書70周年記念講演会



鈴木結生氏

「口語訳聖書が開いた地平 —ことば・文学・信仰をめぐる—」

日時 2026年5月9日(土) 13:30~16:45  
 会場 青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂  
 総司会 松谷信司氏 (「キリスト新聞」編集長)

- |  |   |
|--|---|
| <p>第1部</p> <p><b>講演</b> 「世界もその書かれた書物を<br/>収めきれないであろう」<br/>鈴木結生氏 (小説家、第172回芥川賞受賞)</p> <p><b>対談</b> 鈴木結生氏×松永美穂氏<br/>(翻訳家、早稲田大学文学学術院教授)</p> | <p>第2部</p> <p><b>講演①</b> 「口語訳聖書と戦後日本のキリスト教」<br/>吉田 新氏 (聖書学者、東北学院大学文学部総合人文学科教授、同学科長)</p> <p><b>講演②</b> 「日本語史から見た聖書の日本語訳」<br/>近藤泰弘氏 (言語学者、青山学院大学名誉教授)</p> |
|--|---|

バイブルハウス京都主催 「伝記漫画『三浦綾子』刊行イベント」

日時 2026年5月22日(金) 18:30~20:00  
 会場 同志社大学 同志社礼拝堂  
 講演 「チャペルde文学サロン〈恋×罪×信仰〉三浦文学を語り尽くす」  
 ゲスト 森下辰衛氏 (三浦綾子記念文学館特別研究員) 聞き手 松谷信司氏

バイブルハウス堺主催 「伝記漫画『三浦綾子』刊行イベント」

日時 2026年5月23日(土) 13:30~15:00  
 会場 チャペル・こひつじ礼拝堂 (堺市北区中百舌鳥町)  
 講演 「三浦綾子の人生と信仰と文学」  
 ゲスト 森下辰衛氏 (三浦綾子記念文学館特別研究員) 聞き手 松谷信司氏

聖書セミナー・長崎 「聖書の言葉・詩の言葉」

日時 2026年6月27日(土) 14:00~16:00  
 会場 活水女子大学 大チャペル  
 講演① 「若者よ、あなたの道を行きなさい—コヘレトの言葉を読む—」  
小友 聡氏 (日本旧約学会会長、聖書協会共同訳旧約担当翻訳者)  
 講演② 「神と人をつなぐ言葉」岡野絵里子氏 (詩人、聖書協会共同訳日本語担当翻訳者)

聖書セミナー・札幌

日時 2026年10月9日(金) 18:30~20:30  
 会場 ザ・ルーテルホール (札幌ルーテルセンター内)  
 講演 「心にひびく聖書の言葉 (仮)」片柳弘史氏 (カトリック司祭、イエズス会士)  
 証し・サクソ演奏 遠藤 稔氏 (東栄福音キリスト教会主任牧師)

※イベントの時間、講演タイトルなどは変更になる場合があります。  
 お問い合わせは広報部 (Tel: 03-3567-1988、Email: info2@bible.or.jp) まで

第4回 聖書エッセイコンテスト 授賞式

特別対談 「聖書×贈りもの —Bible×Gift—」

林あまり氏×清涼院流水氏×松谷信司氏



準大賞の授与 (右・2年連続入賞のびわしゅさん)



特別対談の様子

2026年1月31日(土) 午後、銀座資生堂ビル9階「ワードホール」を会場に、エッセイコンテストの授賞式が対面とオンラインのハイブリッドで開催されました。ノミネートされた方やご家族も含め多くの方にご来場いただきました。期待と緊張の空気の中、過去最多の応募数122作品から選ばれた受賞作品が発表されました。今回は大賞が「無し」、準大賞2作品、特別賞4作品(あまり賞、流水賞、松谷賞、総主事賞)、佳作7作品の表彰を行いました。

第3回で「あまり賞」を受賞されたびわしゅさんは準大賞に輝き、連続受賞となりました。同じく準大賞を受賞された佐伯理奈さんはオンラインで参加され、「受賞をきっかけ

に、改めて神様が共にいて下さることを感じる事ができました。これからも神様に見守っていただきながら、朗らかに、誠実に生きていきたいと思えます。」と語りました

授賞式後は、審査員を務められた3人を登壇者として迎え特別対談が行われました。受賞作品に対する登壇者のそれぞれの思いと、「聖書×贈りもの」というテーマについて、登壇者の経験なども交え語ってください。最後は聖書エッセイコンテストがますます広がっていくよう、多くの方に参加してほしいという呼びかけで締めくくっていただきました。授賞式及び特別対談のもようは日本聖書協会YouTubeチャンネルで公開しています。



第5回 聖書エッセイコンテスト

開催決定

応募要項の発表は5月以降の予定です。  
 日本聖書協会公式ウェブサイト  
 特設ページをご覧ください



[https://www.bible.or.jp/bible\\_essay\\_contest](https://www.bible.or.jp/bible_essay_contest)

佳作

- 祈りが重ねられた聖書 ..... 白花香
- 祖父からの聖書と私の歩み ..... ひかり
- 信仰により生きる ..... 新垣 梓
- 贈られて、贈って。 ..... かやぼん
- 私の名前をくれた聖書 ..... 春がち
- 「イエイ!」と言って天国へ。 ..... 知念満二
- 父よ、兄よ ..... シモダイラ

第4回聖書エッセイコンテスト応募合計122点  
 公式ウェブサイトに全受賞作品を掲載しています  
[https://www.bible.or.jp/bible\\_essay\\_contest/award-4th](https://www.bible.or.jp/bible_essay_contest/award-4th)

# 大阪万博(1970年)と日本聖書協会



キリスト教館の外観

昨年の大阪・関西万博から遡ること55年、万国博覧会(大阪万博)が開催された。アジア初開催のこの万博には、プロテスタント諸教会、カトリック教会、バチカン市国の三者共同で「キリスト教館」が展覧された\*。キリスト教館の企画・演出には、「目と手——人間の発見——」をテーマに作家の遠藤周作らがプロデューサーとして関わった。3月15日~9月13日の会期中、平日には平和の祈りが、日曜日には礼拝が行われ、毎日パイプオルガンの演奏があった。また不定期に歌や楽器のコンサートが開かれ、この展示場のために椎名麟三や田中千禾夫が脚本を書き下ろした劇の上演もあった。

日本聖書協会は、多数の来訪者が見込まれるこの万博を絶好の聖書頒布の機会ととらえ、「愛」をテーマとした2種類の小冊子を準備した。一つは分冊(ヨハネの手紙一の全文)、もう一つは選集(同書4章7~21節の和英対照)だった。また会場には、白い革表紙の講壇用聖書(口語訳)特装版が、バチカンから提供されたシナイ写本の復刻版と共に展示された。ペンテコステから三週間は、古い貴重な聖書の展示も行われた。聖書協会の職員が、展示用の貴重聖書を銀座から会場に持参したという(元職員 松本(藤森)光子さん談)。大阪市北区堂島にあった聖書協会の関西支社には、応援要員の職員のほか、後援会員も宿泊することができた。会期中、キリスト教館には232万人余りが訪れ、聖書協会は、聖書の分冊と選



会期中、配布されたヨハネの手紙一の分冊と選集



来館者50万人ごとに記念聖書が贈呈された。写真手前は200万人目の来館者の女性。

万博記念のマークが付いた小型革装口語訳聖書



集を含めて、381万部もの聖書を頒布したのだった。「いただいた聖書を帰りの列車中でしみじみ読ませて頂きました。更に進んで聖書の他の部分をも求めて読みたい」という来館者の声は、聖書との出会いの提供が聖書協会の大切な使命であることを再認識させてくれる。

(日本聖書協会編集部 飯島克彦)

\*キリスト教館の展覧をめぐるのは、激しい反対運動が起こった。詳しくは、増田斎「一九七〇年キリスト教界における戦後主体性論争——大阪万博キリスト教館と万博反対運動」佐野真由子編『万博学』思文閣出版、2020年、323-334頁を参照。

## ソア54号発行によせて



総主事 具志堅 聖

General Secretary  
Gushiken Kiyoshi

5,000万もの人々をカバーしています。カヴィト・ジモー総主事のもと、巨大組織の効率的で透明性の高い運営を目指した改革がこの3年間で着実に進められてきました。

BSIには、聖書の人々に届けるための「3つの合言葉」があります。

○Available (言葉の壁をなくす)：誰もが自分の「心の言葉」で理解できること。

○Affordable (経済の壁をなくす)：貧しい人でも無理なく手に取れる価格であること。

○Accessible (形の壁をなくす)：点字、音声、デジタルなど、自分に合った形で利用できること。

インドという広大で変化の激しい国で、BSIが「一人ひとりに寄り添い、聖書を届ける」ためにどれほどの情熱を注いでいるかを肌で感じることができました。2036年の目標達成に向けた力強い歩みを、日本の私たちも、未来に向けた大きな励みにしたいと思います。

2026年2月、私はインド南部の都市ベンガルールで開催された「第29回トリエンニアル中央評議会」に出席しました。この会議は3年に一度、インド聖書協会(BSI)のリーダーたちが集まる大切な「総会」です。会場にはインド全土から教会の代表やスタッフ、海外からのゲストなど100名以上が集まり、2日間にわたって熱心な話し合いが行われました。

今回の会議で最も注目されたのは、聖書翻訳の具体的な進捗と未来へのロードマップでした。現在、BSIは点字聖書も含め、多くのインド諸言語で聖書を提供しています。聖書全巻は86言語、新約聖書はさらに88言語で完成しており、現在も127の翻訳プロジェクトが同時進行で進められています。BSIは、設立225周年を迎える2036年までに、合計225の言語で聖書翻訳を完成させるという歴史的な目標を掲げました。文字を読めない方や視覚障がいのある方にも届くよう、オーディオ版聖書の拡充や、スマホで読めるデジタル版、手話訳の開発にも力を入れています。

BSIの歴史は古く、1811年にカルカッタで始まりました。現在は国内に17の支社があり、1つの支社が



### 編集後記

53号に引き続き、聖書普及事業150年にまつわる特集を組みました。日本で彫られ、御言葉を多くの人に届けた木版が、アメリカで大切に保存されていたこと、太平洋戦争をはさむ150年の時を経て、日・米の聖書協会が分かち合ってきた歴史に思いを馳せました。150年記念レセプションにて、版木の贈呈をしたのは記事を執筆したジョン・プレイク氏。英語で「ヨハネ」を意味する「ジョン」がヨハネ福音書の版木を持ってきた、と海外からのゲストの間で話題になりました。

P67には、150年記念講演会の講演論旨を掲載しました。講演全文を掲載した「150年記念講演会講演録」を4月に発行する予定です。それぞれのテーマについて、豊富な資料を引用して深く論じられています。テーマにご興味がありましたら、ぜひ講演録をお読みください。

「聖書をお届けする。ひろく、あまねくの働きを151年目からもたげますに続けてまいります。」

本誌に関するご意見、ご感想をぜひ広報部(into2@bible.or.jp)までお知らせください。



日本聖書協会の新レーベル

**B** BIBLE HOUSE の伝記漫画 **NEW**

# 三浦綾子

生きる希望と勇気を人びとに語りつづけた  
キリスト教作家

漫画 ● 高倉みどり

シナリオ ● 日本聖書協会

監修 ● 三浦綾子記念文学館特別研究員 森下辰衛

上製・ジャケット・帯掛

A5判 128頁  
巻頭数頁4色、他スミ1色  
厚さ約20mm 約350g  
1,980円(1,800円+税)  
ISBN978-4-8202-9299-9

発売時期：2026年6月(予定)



黙想シリーズ 日々の黙想  
聖書 聖書協会共同訳  
今ここに気付く  
150の祈りと瞑想



神と共に自分自身でいるために  
クリスチャンのための  
マインドフルネス実践入門

自分への不満、過去への後悔、未来への不安…。心はいつもどこかをさまよっている。でも本当は、自分の中に安らぎ、神とつながって生きたい。これは、そんなあなたのための本です。

マインドフルであるとは、真の意味で「気付いている」ということ。あるがままの「今ここに」気付くことから、マインドフルネス探求の旅を始めませんか。

アイリーン・クレイゲル著

合成皮革装・スリーブ入り  
天地175×左右110mm 360頁  
2,640(2,400+税)円  
ISBN978-4-8202-9294-4

聖書協会共同訳  
小型聖書ジッパー付き



表紙PU(エナメル塗布加工)

①旧新約聖書  
SI45Z  
A6判 2,034頁  
文字の大きさ7ポイント  
厚さ約14.5mm  
4,400(4,000+税)円  
ISBN978-4-8202-1367-3

A6判  
小型聖書

表紙PU(エナメル塗布加工)

②旧約聖書続編付き  
SI45DCZ  
A6判 2,450頁  
文字の大きさ7ポイント  
厚さ約58.5mm  
4,950(4,500+税)円  
ISBN978-4-8202-1368-0

ジッパー付きカバーが  
本体を保護。  
鞆の中でも聖書が傷み  
ません。



旧約聖書 詩篇 四訳対照

日本における聖書普及事業150年記念出版

- ・文語訳(明治元訳/1887年):初の聖書全巻の日本語訳。近代日本の思想・文化に大きな影響を与えた。
- ・口語訳(1955年):戦後の国語改革の流れの中で、初めて実現した聖書全巻の現代語訳。
- ・新共同訳(1987年):カトリック教会とプロテスタント諸教会が初めて共同で翻訳した画期的成果。
- ・聖書協会共同訳(2018年):原文に忠実かつ美しい日本語を追求した21世紀の新しい共同訳。

歴代の聖書を、「小聖書」と呼ばれ、古代から典礼や祈りに用いられてきた詩篇で読み比べ、味わってみませんか。

- ・文語訳
- ・口語訳
- ・新共同訳
- ・聖書協会共同訳

四訳を比較しながら読める!

●詩篇 23篇 2節の比較

エホバは我をみどりの野にふさせ  
いこひの水濱にともなひたまふ。[文語訳]

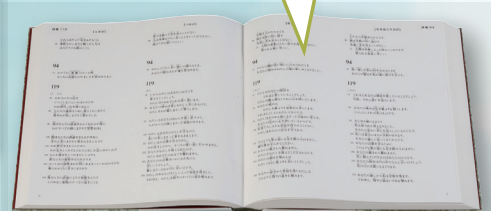
主はわたしを緑の牧場に伏させ、  
いこひのみぎわに伴われる。[口語訳]

主はわたしを青草の原に休ませ  
憩いの水のほとりに伴い。[新共同訳]

主は私を緑の野に伏させ  
憩いの汀に伴われる。[聖書協会共同訳]

ハードカバー・ケース入

JLJCNISI 553  
天地210×左右210mm 422頁  
文字の大きさ約8ポイント  
税込価格3,960(3,600+税)円 ISBN978-4-8202-4276-5



JBS 日本聖書協会

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目5-1 TEL.03-3567-1987 FAX.03-3567-4451